

フォーラム委員会だより

第199回 aaca フォーラム開催報告 心地よい空間をデザインする

光の時間と色彩感覚・環境をつくる建築素材の視点から

フォーラム委員会

コロナ禍で催し物開催への制約が続く中、本年6月20日に第199回 aaca フォーラムを開催しました。前回の開催が2021年3月でしたので(この時はオンラインのみ)1年3ヵ月ぶりで、しかも会場にお集まりいただくリアル開催としました。

「やっぱりリアルがいいね～」とご参加いただいた皆様一様におっしゃいました。

講演は『心地よい空間をデザインする』というタイトルで、ステンドグラス作家の平山健雄さんと建築家の霜野隆さんお二人に対談形式でお話いただきました。

サブタイトルを「光の時間と色彩感覚・環境をつくる建築素材の視点から」としました。これは、ステンドグラスを通して差し込む光が建築空間を演出する魅力的な素材で、建築と一体化して美しい空間を創出する平山さん。珪藻土と桐を用いて建築空間に多彩な表情と良質な環境を創り出す霜野さん。お二人が永年に渡り極めてこられた仕事を建築素材という視点で見つめ、語り合っていたく演出意図で設定したものです。

平山さんは第194回 aaca フォーラム(2018年11月)にもご講演いただきました。この時はステンドグラスの歴史やパブリックアートとしての側面についてお話いただきました。今回はステンドグラスを構成するガラスの特性や多様さ、時間と共に移ろう自然光とステンドグラスを通して射し込む光による色彩

の感覚など、建築空間を見事に心地よく演出する素材としてのステンドグラスについてお話しいただきました。

霜野さんは「桐材と珪藻土が室内空気をデザインする!」スペシャリストのお立場から桐と珪藻土が心地よい空間を創出する建築素材として、どれほど優れた特性を持っているか、霜野さんご自身の研究成果と実績をご紹介くださいました。

心地よい空間は、光・調湿・温度、そして換気・抗菌化がポイントとなるため、「空気と湿度の関係」「CO2のコントロール」「空気の質=健康の質」について科学的な研究、考察に基づき、心地よい環境をつくる最適な素材である桐と珪藻土を、建築素材としてどのように用いるか、霜野さんの豊富な実績を通して発見された経緯やエピソードについてお話しいただきました。

最後に楽屋ネタをひとつ。平山さんと霜野さんは今回のフォーラム企画で初めて会われたのですが、打合せ初回にお二人共通のご趣味が判明しました。それは「渓流釣り」です。初回の打合せの半分ほどが趣味の話で盛り上がったように記憶しています。その後も毎回打合せの後半はお二人夢中に趣味の話となり、フォーラム開催前の打合せではお二人の釣り旅行日程の確認に発展しました。そして8月には奥只見の平山山荘で釣りと酒盛りを存分に楽しまれたそうです。

(文責: 田島一宏)



SOMPO ケアラヴィーレ元住吉



横浜市立大学 交流プラザ



床・テーブル・椅子・柱、建具は全て無垢桐材



珪藻土で抗酸化空間を実現



霜野さん



趣味で意気投合のお二人



平山さん